

特集

そのとき、動くために

災害 × 国際医療支援 を学ぶ

海外で大きな災害が発生した際に、現地に赴き、日頃培った救急診療のスキルを活かして支援をしたい、と思う救急医は少なくないであろう。一方で、どうすれば実際に支援に参加できるのかについては、経験のない者にとって未知の部分も大きい。すなわち、どのような組織に所属すればよいのか、自らの安全は確保されるのか、通常の救急診療に加えてどのようなトレーニングが求められるのか、語学力はどの程度必要になるのか、普段働いている職場との調整はどうするのか、そして極端な話、人生を災害医療・国際医療に“全振り”しないとできないのか、などである。

そこで今号の特集では、災害時に国際的な医療支援を実際に行っている日本の各団体から、実際の活動内容、活動・派遣へのプロセス、事前の準備や調整、求められる能力や姿勢などについて、ご紹介いただいた。また、災害時の国際医療支援の国際的なスタンダードと最新の知見についても取り上げ、人道支援の国際基準である Sphere, WHO の EMT Initiative, EMTCC (emergency medical team coordination cell) の役割などについて解説するほか、諸外国の医療支援チームの現状も紹介する。

本特集を通じて災害時の国際医療支援のリアルを知っていただき、そして、支援に興味のある救急医の先生方にはぜひ、災害が起きたそのときに、支援の一步を踏み出していただきたい。

特集企画エディター

淀川キリスト教病院救急科・集中治療科

夏川 知輝